

地域の人々と共に活動し、豊かな心をもつ生徒の育成

— ボランティア活動を通して —

阿久比町立阿久比中学校

1 実践のねらい

- (1) 本校は、知多半島の中央に位置する大規模校で、町内唯一の中学校である。学区は、夏に飛び交うホタルを代表として豊かな自然に囲まれている。本年創立67年目を迎え、地域の住民のほとんどが本校の卒業生という中で、生徒は温かい目に見守られて中学校生活を送っている。
- (2) 自分たちの育った地域の清掃活動や奉仕活動に取り組むことにより、よりよい環境を目指し、積極的に地域に働きかける生徒を育成したいと考え本事業に取り組むこととした。

2 実践の内容

(1) 駅前清掃ボランティア

毎月第一日曜日の早朝6時30分から、地域のボランティア団体の皆さんと一緒に、阿久比駅構内と、周辺の清掃を行っている。本年度はさらに、活動を実りあるものにするために、異世代交流会議を設定し、代表の方と生徒会執行部が活動についての意見を交わした。生徒から出た意見を取り入れ、参加生徒の活動内容の不足という課題解消のため、



異世代交流会議

周辺の公園にある樹木の落ち葉清掃などできるように用具を整え、活動の幅を広げた。用具については、地域の方が保管場所を確保してくださり、毎回の活動ごとの運搬が不要となるなど、地域への働きかけの有効性を学ぶ貴重な機会となった。

交流会議での生徒会執行部と団体代表の方との意見交換(抜粋)

生徒会執行部「参加生徒が増えても、活動する内容が少なくて困っています。使える用具を増やすなどして、活動内容を増やしていきたい。」

代表者「たくさんの生徒に参加してもらいたいのはもちろんだが、中学生が清掃していることを町内の方が目にするので、ゴミを出さないという抑止力になっているので、がんばって続けてほしい。」

(2) 出身幼稚園・保育園での清掃ボランティア活動

3年生が卒業期を前に、自分の出身園に出かけ清掃ボランティアを行っている。園に事前に中学生にやってほしい活動内容をお聞きした上で訪問させていただいている。清掃活動の間には、園児たちと一緒に遊んだり、歌を披露し合ったりしたりしている。卒園時お世話になった職員に会えることもあり、その成長した姿を見せられることをとても楽しみにしている中学生も多い。

(3) 地域の老人・介護ホーム等への訪問活動

夏休み・日曜日・冬休み等にそれぞれ、吹奏楽部、合唱部、演劇部の部員が活動の発表を兼ね、地域の老人・介護ホーム等を訪問し、入所されている方々と交流した。特にホームでは、入所してみえる方々が普段行っている作業を一緒にしたり、似顔絵を描いてプレゼントしたり、より触れ合える交流を図る工夫もされていた。部員たちの歌や劇の発表を楽しみにしてみえて、手拍子や合いの手を入れるお年寄りもいらっしやり盛り上がった交流となった。



吹奏楽部の敬老会での演奏

(4) ヒガンバナボランティア

5月中旬、地元の阿久比川の阿久比町側河岸堤防にヒガンバナの球根植栽ボランティアに参加した。今年も220名を超える生徒が参加した。例年、地域のボランティア団体「矢勝川の自然を守る会」の方が用意してくださった球根の植栽に携わってきたが、今年は土手に自分たちで植える穴を掘る作業も加えた。道具の使い方を大人から直接教わりながら汗だくの作業に励んだ。



ヒガンバナボランティア

(5) 幼保小中高一斉あいさつ運動

阿久比町が平成17年度に立ち上げ実践している幼保小中一貫教育プロジェクトの取組の中で「幼保小中高一斉あいさつ運動」を実施している。期間は、中学校の1・2学期の期末テスト週間で、教員、生徒会執行部、生活委員会が主体となり、PTA理事も交代で全員が参加している。通学路、正門に立ち、登校してくる生徒にあいさつを呼びかけている。中には、恥ずかしがって声が出せない生徒や、うなずくだけの生徒も見られるが、あいさつできる生徒が増えている。



秋のあいさつ運動

3 実践の成果や課題

本事業の取組の1つとして行った「異世代交流会議」を通して、生徒会役員が地域の方の思いを知ることで、全校生徒への参加呼びかけにも熱が入り、自主参加の活動への参加数が徐々に増えてきている。上記以外のボランティア活動にも目を向け、地域の様々な施設でのボランティア活動に参加する生徒も見られる。また、中学生の地域行事への参加に対する地域の期待も大きい。部活動の時間との重複など難しい課題はあるが、今後も地域の方と共に活動する生徒、そして地域の力となる生徒を育成し、地域と学校の絆を育んでいきたい。